

日本労働年鑑 第51集 1981年版
The Labour Year Book of Japan 1981

第二部 労働運動

XIII 政治的大衆行動と平和運動

6 第二六回日本母親大会

一九八〇年八月の第二六回日本母親大会(東京)を前にして、これまで統一してすすめられてきた日本母親運動は、困難な事態に直面した。母親大会は、一九五五年の第一回母親大会以来、「生命を生み出す母親は生命を育て、生命を守ることをのぞみます」というスローガンをかかげてつづけられ、この間、一九六六年の第一二回日本母親大会は役員人事問題に端を発して、総評、日教組などが不参加のもとで開かれたが、大会後、この事態を收拾するために、懇談会が設けられ、その合意文書として、連絡会と政党、連絡会と参加団体、日本母親大会の機構と運営についての「懇談会統一メモ」がつくられた。これにもとづいて、第一三回以降、大会は、七九年の第二五回大会まで全通、全電通、全日通をのぞいて、総評、日教組も参加して開かれ、第二五回大会の総括文書では、「分科会、全体会を通じて、統一のための配慮と熱意がゆきわたっていたことは今年の大きな特徴でした」と総括していた。

第二六回日本母親大会の開催をめざして、三月一三日、日本母親大会実行委員会が発足し、準備活動に入ったが、五月二〇日、日教組代表は、「母親大会は、ことしの大会までに不参加単産に呼びかけて、統一を回復する結論を得るよう努力してほしい」と実行委員会に要請した。日教組による要請は、八〇年一月以来、日本母親大会連絡会になされていたが、大会実行委員会はこの日教組の要請を受け入れ、不参加単産に参加要請をおこなったが、満足な回答がえられないままになっていた。こうしたなかで、七月七日、日教組中央執行委員会は「努力がたりない、準備を先行させた」などを理由に母親大会への参加中止を決定、同日開かれた総評単産婦人部長会議も母親大会への不参加を決定した。また、自治労婦人部長会議も、不参加を確認した。

こうした不参加決定が相つぐなか、七月一二日、統一労組懇婦人連絡会運営委員四氏は「総評単産婦人部長会議が母親大会への不参加を決定したことは、全国の婦人労働者の期待を裏切り、反動勢力を喜ばせる重大な問題であるといわねばなりません」と抗議声明を発表、また、日本母親大会実行委員会は、同日、大会の日程や分科会テーマなどについて説明をおこない、「声明」を発表した。声明は第二六回母親大会の意義とこれまでの経過を明らかにしたうえで、「母親大会のスローガンに賛同される各団体の新たなご参加と、母親大会を支持される多くの国民のみなさんのご協力、ご支援を切に希望します」としてつぎのように述べている。

【声明(一部抜粋)】

この経過が示すように、今日の情勢では、とくに困難な不参加単産の再参加実現を、期限を切って「努力せよ」といい、参加が実現するまで大会準備を認めないなどということとは、難題を押しつけて不参加の口実をつくったとしか考えられません。日教組中央執行委員会、総評単産婦人部長会議が、あいついで不参加としたのも、これがあらかじめ

仕組まれたプログラムであったことを示しています。大組織が大衆団体にむかってこのような態度をとることは、「懇談会統一メモ」の「母親連絡会の参加団体はすべて平等である」という確認にも違反し、民主主義をかかげる労働組合として、あるまじきことではないでしょうか。

第二十六回日本母親大会は、母親運動にとって、きびしい試練の大会となりました。とりわけ、不参加組織の組合員のみなさんには、たいへんご苦勞をかけることとなります。しかし、たとえ組織が不参加でも、個々の単産、地域の働く母親の切実な願い、ねばりづよい運動は、決して阻害されるものではありません。私たちは、これまでも困難をのりこえるたびごとに、いっそうきたえられ、かしこくなり、運動を発展させてきました。昨年も、ことしも運動によって結ばれた団体の新しい参加が続いています。職場の婦人も、家庭の婦人も、思想信条のちがいをこえて、要求で団結し、統一する母親運動の真価がいまこそ示されるときです。

【参考資料】(1)総評「第六一回定期大会・各局報告書」、「拡大評議員会資料」、同教宣局『労働ニュース』、(2)日本社会党『社会新報』『月刊社会党』、(3)日本共産党『赤旗』、『前衛』、(4)日本原水協『原水協通信』、(5)原水禁『原水禁ニュース』、(6)日本平和委員会『平和新聞』、『平和運動』、(7)日本母親大会連絡会『母親しんぶん』

日本労働年鑑 第51集 1981年版

発行 1980年11月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

労働旬報社

****年**月**日公開開始

■←前のページ 日本労働年鑑 1981年版(第51集)【目次】次のページ→■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
